

令和4年度（2022年度）学校評価報告書

令和5年（2023年）3月20日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌聾学校長 四 木 定 宏

次のとおり令和4年度（2022年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 安全・安心な学校であり続けるための危機管理、安全指導、学習保障の推進
- (2) 遠隔会議システム等を活用した学習、研修の充実
- (3) 業務の見直し等による「働き方改革」の推進（子どもと関わる時間の確保）
- (4) 学校運営協議会の設置に向けた準備

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	・子どもが安全・安心して学ぶことができる学校を目指して、職員の専門性の向上を図るとともに、医療的ケアの充実が必要である。	・幼児児童生徒が明るく楽しく学ぶことができるための体制整備として、教員の専門性向上及び医療的ケアの充実を目指した学校経営をお願いしたい。
改善方策	・教職員のニーズやキャリアに応じた、体系的・専門的な校内研修の充実を図る。 ・新たに医療的ケア対象児が在籍する学部における研修の充実を図るとともに、常勤看護師の配置に向けた教育委員会への働きかけを行う。	
学校組織の活性化	・本校においては、人的資源に恵まれている一方で、これらを組織として有機的に結びつけていくことが課題である。	・新たな取組を始めるに当たって、教職員の負担軽減の観点から、スクラップ＆ビルドによる働き方改革を推進してほしい。
改善方策	・本校としての「目指す教員像」を全職員で共有し、組織的・計画的に業務を推進していく。 ・「北海道アクションプラン」の趣旨を踏まえた働き方改革を推進していく。	
教育課程	・個別最適な学びと協働的な学びを進めることを通して、指導と評価の充実を図る必要がある。	・幼児児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な能力及び態度の育成を目指したキャリア教育の充実をお願いしたい。
改善方策	・カリキュラム・マネジメントの視点で、聴覚障がいの特性に応じた学習指導の充実を図るとともに、乳幼児相談から中学部までの一貫性のある教育の実現を目指す。 ・授業における指導と評価の一体的な改善・充実を図っていく。	
家庭・地域・関係機関との連携	・社会に開かれた教育課程の実現を目指して、センター的機能及びコミュニティ・スクールの取組を推進する必要がある。	・コミュニティ・スクールの推進に当たっては、成人したろう者と交流する機会を設定するなど、幼児児童生徒のキャリア発達を促す取組をお願いしたい。
改善方策	・学校運営協議会の機能を生かした地域とともにある学校づくりを目指し、本校教職員及び協議会委員において、「目指す子ども像」についての熟議を行う。 ・地域の人材などの教育資源を積極的に活用した体験的な学習の充実を図っていく。	
公表方法	・本校Webページでの公表 ・学校だよりへの掲載	

3 添付資料

- ・令和4年度 教職員による学校評価（集計結果）